3. 事業概要

(1) 常　設　展

常設展示室は全体で５室の構成となっている。第１室は「山梨の文学風土」と「樋口一葉」コーナー、第２室は「山梨出身ゆかりの作家と作品」、第３室は芥川龍之介コーナー、第４室は飯田蛇笏・飯田龍太記念室、第５室は山梨出身・ゆかりの作家104名をジャンルごとに年２回入れ替えて紹介している。

常設展示室の第１～４室は、下記のとおり春夏秋冬にあわせて年４回、一部の資料の入れ替えを行い、第１室の一画にコーナーを設け、期間限定で資料を公開した。また、平成30年３月10日（土）～６月３日（日）の間、全国文学館協議会共同展示「3.11文学館からのメッセージ―天災地変と文学」として第２室山本周五郎コーナーで「山本周五郎と明治40年の水害」の展示を行った。

以下の資料一覧には、平成29年３月22日（水）～平成30年３月11日（日）の間、常設展示室に出品した資料すべてを提示した。

第1室

期間限定公開

◆春の常設展　推理小説の開拓者　木々高太郎　3/22（水）～ 6/4（日）

海野十三　木々高太郎宛書簡　1936（昭和11）年12月19日
夢野久作　木々高太郎書簡　1935（昭和10）年12月22日
江戸川乱歩　木々高太郎宛書簡　1937（昭和12）年（推定）２月25日
「盲ひた月」原稿
「美の悲劇」原稿
「木々高太郎を喜ぶ会」（直木賞受賞記念会）寄せ書き
小栗虫太郎　木々高太郎宛書簡　1937（昭和12）年２月10日
木々高太郎 画「折蘆」カット
「笛吹」原稿
松本清張　木々高太郎宛書簡　1952（昭和27）年８月５日

◆夏の常設展　夏目漱石　生誕150年企画

漱石とミレー　6/6（火）～7/17（月・祝）

ジャン＝フランソワ・ミレー「鵞鳥を追う少女」1865年頃　水彩、インク・紙　山梨県立美術館蔵
夏目漱石「鵞鳥を追う少女」水彩、紙

漱石と橋口五葉　7/19（水）～ 8/27（日）

橋口五葉「化粧の女」1918（大正７）年　木版　山梨県立美術館蔵
橋口五葉「髪梳ける女」1920（大正９）年　木版　山梨県立美術館蔵
橋口五葉宛謝礼支払通知書　1906（明治39）年７月26日
夏目漱石「吾輩は猫である」第９回原稿〈複製〉
「漱石山房」原稿用紙
「ホトトギス」第８巻第５号、第７号　1905（明治38）年２月、４月
夏目漱石『吾輩ハ猫デアル』上・中・下編　1905（明治38）年10月～1907（明治40）年５月　大倉書店・服部書店
夏目漱石『虞美人草』1908（明治41）年１月　春陽堂
夏目漱石『草合』1908（明治41）年９月　春陽堂
夏目漱石『漾虚集』1906（明治39）年５月　大倉書店・服部書店

◆秋の常設展　夏目漱石　生誕150年企画

漱石―手紙の達人　8/29（火）～ 10/15（日）

夏目漱石　白仁三郎宛書簡　1907（明治40）年３月11日
津田青楓「漱石山房図」
夏目漱石　志賀直哉宛書簡　1914（大正３）年２月２日
夏目金之助（漱石）松根豊次郎（東洋城）宛葉書　1911（明治44）年10月20日消印

夏目金之助（漱石）松根豊次郎（東洋城）宛葉書　1911（明治44）年10月22日消印
夏目金之助（漱石）松根豊次郎（東洋城）宛葉書　1911（明治44）年10月23日消印

漱石と芥川龍之介　10/17（火）～ 12/ 3（日）

夏目漱石　久米正雄・芥川龍之介宛書簡　1916（大正５）年８月21日
夏目漱石『社会と自分』1915（大正４）年11月　実業之日本社
芥川龍之介「葬儀記」原稿
第四次「新思潮」第２年第２号漱石先生追慕号　1917（大正６）年３月
芥川龍之介「或阿呆の一生」原稿「十　先生」
芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」原稿「十七　夏目先生」

◆冬の常設展　詩人・小林冨司夫　生誕100年　12/ 5（火）～ 3 /11（日）

小林冨司夫 画「壺とかすみ草」油彩画
小林冨司夫書　于武陵の漢詩「歓酒」より
人間図　天地の間　みどり色の人体に落日□あり　霙降り　終駅へ着く　散つてゆく誰も誰も誤解の子
青島時代のノート
愛用の硯と落款印
「戦野詩抄　麥原」ノート
「山廬周遊」原稿
寄せ書き色紙　1958（昭和33）年５月８日　飯田蛇笏、飯田龍太、深沢七郎、小林冨司夫
「秋しかと竹に声寄す狐川」
「蛇笏百景」ノート
「大磯・馬込・甲府」原稿
八木義徳　小林冨司夫宛書簡　1982（昭和57）年５月10日
津島美知子宛　太宰治文学碑完成除幕式案内　1953（昭和28）年10月15日
太宰治文学碑のための切貼原稿「富士には月見草がよく似合ふ」
小林冨司夫宛　秋山秋紅蓼句碑建設の趣意書　1960（昭和35）年４月
「略年譜」

山梨の文学風土

甲斐のうた（パネル展示）

酒折の宮／塩の山・差出の磯／都留の郡／甲斐の牧

甲州の紀行文

深草元政『身延道の記』元禄17年刊
荻生徂徠『徂徠集』巻之十五　元文元年序文「峡中紀行」収録
賀茂季鷹『富士日記』文政６年刊

甲府学問所　徽典館

甲府勤番支配宛　徽典館学頭任命通知書
乙骨耐軒「維新亨齋詩初稿」
乙骨耐軒「甲役途中詩」

国学を学んだ人々

萩原元克編『甲斐名勝志』天明３年９月刊
本居宣長点　辻守瓶「思(おうじ)往事(をおもう)」1789年頃
本居宣長点　辻守瓶「春十首」和歌
「万葉の集見ずして」本居宣長点　辻守瓶　江戸時代
万葉和歌集　巻第二十　江戸時代

樋口一葉（ひぐち　いちよう）

樋口一葉「さゞれいしの昔よりして契りけん岩ねをめぐるたに河のみづ」短冊軸装
馬場孤蝶「一葉の住みし町なり夕時雨」軸装
樋口一葉「本郷五丁目」草稿軸装
樋口一葉　古屋よし宛書簡　1890（明治23）年７月
木村荘八「たけくらべ絵巻」画稿控（筆屋）
一葉筆手習い帖「徒然草」「竹取物語」「伊勢物語」
樋口一葉　伊庭隆次宛書簡　1892（明治25）年７月28日〈複製〉
愛用の筆立て
新五千円札（A000006A番）
一葉愛用の筆立て
一葉愛用の髪飾り・櫛・こうがい
一葉旧蔵　短冊ばさみ
写真パネル　母多喜・奈津（７歳頃）・姉ふじ・妹くに　本郷６丁目５番屋敷時代
写真パネル　左から次兄・虎之助、父・則義、長兄・泉太郎
樋口虎之助作　薩摩焼絵付皿
写真パネル　萩の舎集合写真
写真パネル　半井桃水
写真パネル　竹内桂舟 画「うもれ木」第７回挿絵
写真パネル　文学界同人
「武蔵野」第１輯〈復刻〉1892（明治25）年３月　今古堂
樋口一葉「たけくらべ」原稿〈複製〉
「文学界」1895（明治28）年１月〈復刻〉
樋口一葉「ゆく雲」未定稿〈複製〉
写真パネル　一葉女史の碑建碑の日　1922（大正11）年10月15日
馬場孤蝶 編集・校訂『一葉全集』前編　1912（明治45）年５月　博文館

第２室

井伏鱒二（いぶせ　ますじ）

井伏鱒二「はるのねざめのうつゝできけばとりのなくねでめがさめました」軸装
井伏鱒二　野上照代宛書簡　1985（昭和60）年５月７日消印
井伏鱒二「わたくしは平凡な言葉を好きな人間になりたい」額装
井伏鱒二・奥山靉「送状　水門町ハ大酔我等大酔　奥さん叱る勿れ」額装
井伏鱒二　野上照代宛書簡　1985（昭和60）年８月２日
井伏鱒二「さびしい庭にまつかさ落ちてとてもお前はねにくうござろ」色紙
井伏鱒二「けふは仲秋明月」枕屏風
井伏鱒二「九月二十日記」原稿
井伏鱒二「はなにあらしのたとへもあるぞさよならだけが人生だ　花発多風雨　人生足別離」軸装〈複製〉
井伏鱒二「歳末閑居一節」額装
井伏鱒二「波高島」原稿〈複製〉
写真パネル　1963（昭和38）年４月16日　栃代川の釣行で　井伏鱒二、山角司、飯田龍太、小林冨司夫　撮影宅間正一
井伏鱒二『トートーという犬』1988（昭和63）年７月　牧羊社
白根美代子画『トートーという犬』挿絵原画
映画「黒い雨」パンフレット
井伏鱒二　野上照代宛書簡　1984（昭和59）年10月１日消印
井伏鱒二　野上照代宛書簡　1985（昭和60）年７月12日消印
井伏鱒二『小黒坂の猪』1974（昭和49）年７月　筑摩書房
愛用の釣り竿と魚籠

太宰　治（だざい　おさむ）

太宰治「ヴィヨンの妻」原稿〈複製〉原本寄託資料
太宰治『ヴィヨンの妻』1947（昭和22）年８月　筑摩書房
太宰治　高田英之助宛書簡　1939（昭和14）年１月17日〈複製〉
太宰治　井伏鱒二宛書簡　1941（昭和16）年６月25日
太宰治　野田宇太郎宛葉書　1945（昭和20）年４月17日
写真パネル　甲府市水門町（現・朝日1丁目）の石原家玄関横で　1939（昭和14）年元旦
三鷹の古本屋にて　撮影 田村茂
写真パネル　陸橋（三鷹電車庫跨線橋）にて 1948（昭和23）年３月　撮影 田村 茂
太宰治文学碑「富士には月見草がよく似合ふ」（表面）拓本軸装
太宰治『女生徒』1939（昭和14）年４月　砂子屋書房
太宰治「陰火」原稿　複製
太宰治『富嶽百景』1943（昭和18）年１月　新潮社
太宰治　浅見淵宛葉書　1940（昭和15）年６月21日消印〈複製〉
太宰治『人間失格』1948（昭和23）年７月　筑摩書房
太宰治　浅見淵宛書簡　1935（昭和10）年11月22日消印〈複製〉

檀　一雄（だん　かずお）

檀一雄　中国でのスケッチブック
檀一雄「萬葉びとの声」原稿
檀一雄「痩せ脛の尚よろけ行く秋の風」一枚物
檀一雄「花を天に挿ざし月を地に展ぶ」色紙
檀一雄「世界のもの憂き町を歩きつめたる悲しき男有り」色紙
檀一雄「天魔いくつ通り過ぎたる地ベタ哉」色紙
檀一雄「酔残二明」水彩
映画「火宅の人」ポスター1986（昭和61）年 東映
檀一雄「太郎生後九十四日」額〈複製〉
写真パネル　能古島の草庵「月壺洞」にて　1975（昭和50）年
檀一雄『リツ子・その愛』『リツ子・その死』1950（昭和25）年４月　作品社
檀一雄「微笑」（『火宅の人』第１章）原稿〈複製〉
檀一雄『火宅の人』特装本　1979（昭和54）年６月　新潮社
檀一雄『真説石川五右衛門』1951（昭和26）年９月　新潮社
檀一雄『檀流クッキング』1970（昭和45）年７月　サンケイ新聞社
「新人」創刊号　1933（昭和８）年11月

山本周五郎（やまもと　しゅうごろう）

映画「赤ひげ」ポスター　1969（昭和44）年　ニュープリント
映画「さぶ」ポスター
山本周五郎「あとがき」原稿
山本周五郎　佐藤俊雄宛書簡　1943（昭和18）年９月21日消印
映画「五瓣の椿」ポスター　1964（昭和39）年　松竹
写真パネル　秋山青磁 撮影　映画館
写真パネル　秋山青磁 撮影　書斎　間門園にて
写真パネル　秋山青磁 撮影　右から周五郎、高森栄次、山手樹一　1935（昭和10）年頃
山本周五郎「夏草戦記」原稿〈複製〉
山本周五郎『夏草戦記』1945（昭和20）年３月　八雲書店
山本周五郎「わが野鳥たち」原稿〈複製〉
山本周五郎『山彦乙女』1952（昭和27）年２月　朝日新聞社
山本周五郎『甲州小説集』1974（昭和49）年８月　実業之日本社

山本周五郎『季節のない街』1962（昭和37）年12月　文藝春秋新社
山本周五郎　初期習作草稿〈複製〉（清水きよし「酔漢とその細君」、清水紅情「寂しさ」清水清、「或る男女の話」

深沢七郎（ふかさわ　しちろう）

写真パネル　映画「笛吹川」のロケの折に、坊ヶ峯で木下恵介監督と
写真パネル　ギターリストの頃
深沢七郎　井伏鱒二宛書簡　1968（昭和43）年３月10日
深沢七郎「ろまんさ」原稿
高橋忠弥画「ろまんさ」カット・挿絵原画
深沢七郎　小林冨司夫宛葉書　1957（昭和32）年12月５日
深沢七郎　小林冨司夫宛葉書　1958（昭和33）年10月12日
映画「楢山節考」ポスター　1983（昭和58）年
深沢七郎選集出版記念ギターリサイタル　ポスター　1968（昭和43）年
深沢七郎「楢山節考」原稿〈複製〉
「中央公論」第71年第12号　1956（昭和31）年11月
深沢七郎『楢山節考』1957（昭和32）年２月　中央公論社
『楢山節考』出版記念会次第
深沢七郎「笛吹川」草稿〈複製〉
深沢七郎『甲州子守唄』1965（昭和40）年３月　講談社
深沢七郎「言わなければよかったのに日記」原稿〈複製〉
深沢七郎『言わなければよかったのに日記』1968（昭和43）年３月

山崎方代（やまざき　ほうだい）

山崎方代「ことことと雨戸を叩く春の音鍵をはずして入れてやりたり」短冊軸装
山崎方代「なまよみの甲斐の源氏の末なればゆみ取の弓高くあげなむ」軸装
山崎方代「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」色紙
山崎方代「一ひらのさくらの花が流れ来て黒き机の上にとまれり」短冊
山崎方代「茶ぶ台の上の土瓶に心中をうちあけてより楽になりたり」短冊
山崎方代「亡き母のふるさとに来て腹赤き蟹の子供を吹き散すなり」軸装
山崎方代「ふるさとの右左口邨は骨壺の底にゆられて吾が帰る村」軸装
山崎方代「亡き姉よ今御嶽の頂にのぼりて昼の星見けたり」短冊
山崎方代「しのゝめの下界に降りて来たる時石の笑いを耳にはさみぬ」短冊
山崎方代「大きな波が寄せて来る大きな笑いが笑い出したり」短冊
山崎方代「ふるさとの右左口邨は骨壺の底にゆられてあが帰る村」軸装
山崎方代「宿無しの吾の眼玉に落ちてきてどきりと赤い一ひらの落葉」色紙
山崎方代「青桐のたれし夕べのもやの中花より白き君にしたがう」色紙
山崎方代「かたぶける夜更の月が石臼の穴を二つに引きさきにけり」短冊
山崎方代「去年の雪いづくにありや野ぶどうはひそひそ白き萼をこぼしおり」色紙
山崎方代「父母のふるさとに来て腹赤き蟹の子供を吹き散らすなり」額装
山崎方代「底ごもる深いつぶやき静まりて罈の壺はおわしましたり」短冊
山崎方代「広辞苑辞書を枕にかけめぐる半偈の夢を見ることにする」短冊
山崎方代「素麺一束」草稿
写真パネル　湯川晃敏氏撮影
方代愛用の品　拡大鏡　眼鏡　万年筆　文鎮

中村星湖（なかむら　せいこ）

鈴木三重吉　中村星湖宛書簡　1929（昭和４）年９月７日
中村星湖「魚の番人」原稿
坪内逍遙　中村星湖宛書簡　1914（大正３）年10月４日

中村星湖「湖水を渡る白龍」原稿
「赤い鳥」第13巻第３号　1924（大正13）年９月
中村星湖「女のなか」原稿〈複製〉
中村星湖『女のなか』1914（大正３）年10月　早稲田文学社
「早稲田文学」第18号　1907（明治40）年５月
中村星湖『少年行』現代代表作叢書第12篇　1915（大正４）年10月　植竹書院
「赤い鳥」第７巻第５号　1921（大正10）年10月〈復刻〉
中村星湖『うら富士雑話Ⅰ』草稿

前田　晁（まえだ　あきら）

吉屋信子　前田晁宛書簡　1915（大正４）年６月４日
三木露風　前田晁宛書簡　1910（明治43）年７月５日
前田晁「独歩さんの笑顔と警句」原稿
前田晁「クオレ」についての講演原稿
田山花袋筆「文章世界」創刊号立案〈複製〉
前田晁『明治大正の文学人』1942（昭和17）４月　砂子屋書房
前田晁『少年国史物語』原稿〈複製〉

三井甲之（みつい　こうし）

三井甲之「文壇時評」草稿
三井甲之「海の波よせてはかへすと思ふよりもよせてはかへすうねりを見たまへ」短冊
三井甲之「大伴家持」草稿
愛用品　筆立て・インキ壺
三井甲之「落日」歌稿
三井甲之「山上憶良」原稿
三井甲之「甲之歌集　第一巻」自筆歌集
「アカネ」創刊号表紙原案　1908（明治41）年２月〈複製〉
「アカネ」第２巻第４号　1909（明治42）年５月

中里介山（なかざと　かいざん）

中里介山「大菩薩峠」（白骨の巻・他生の巻）原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵
中里介山『大菩薩峠』1918（大正７）年11月　玉流堂
中里介山『大菩薩峠　甲源一刀流の巻』1921（大正10）年５月　春秋社
中里介山「大菩薩峠　めいろの巻」新聞切り抜き
中里介山『大菩薩峠　鈴鹿山の巻』第１冊　第１巻・第２巻　1921（大正10）年５月　春秋社
「大菩薩峠」リーフレット　1951（昭和26）年１月　新国劇初春公演　名古屋御園座
「隣人之友」通巻84号　1933（昭和８）年12月

伊藤左千夫（いとう　さちお）と山梨の歌人たち

伊藤左千夫　岡千里宛葉書　1906（明治39）年７月６日消印
伊藤左千夫「よもつくにの道の長手をよろつたひかへりみすらむ旅の子ゆへに」短冊
岡千里「落椿地上にあそび居たりける青鵐のつがひ枝に上れり」短冊
日原無限ほか「地方歌会　甲斐楓会」原稿
神奈桃村日記　第１号　1906（明治39）年１月１日～12月30日
神奈桃村日記　第２号　1916（大正５）年10月15日～1922年２月28日
伊藤左千夫　岡千里宛葉書　1906（明治39）年８月３日消印
岡千里「あかつきを轉りそめて落椿地上に赤くぬれにゐれたり」短冊
日原無限「時雨空霽れなむとする雲の色彼の雲の色よ君が心に」一枚物
伊藤左千夫　岡千里宛葉書　1906（明治39）年11月11日
伊藤左千夫「敷妙の家のうちとの物みなのきよきにきほひ咲ける花かも」短冊

岡千里「永劫に山河亡びず落椿すぎたる人の慕はしきかも」短冊
神奈桃村日記　1916（大正５）年10月15日～1922年２月28日
伊藤左千夫　岡千里宛葉書　1912（明治45）年２月14日
伊藤左千夫　岡千里宛葉書　1912（明治45）年２月15日
岡千里「吾児等のあさいはさめず紅のはなあたらしき落つばきかも」短冊
日原無限　歌稿
岡千里「落つばき真赤なりけりひたひたと今も落ちつゝ真赤なりけり」短冊
「馬酔木」第３巻第２号　1906（明治39）年２月
「アラゝギ」第２巻第１号　1909（明治42）年９月

秋山秋紅蓼（あきやま　しゅうこうりょう）

秋山秋紅蓼「朝は花を一輪さしてこゝろ定る」色紙
秋山秋紅蓼「牡丹」句稿
秋山秋紅蓼「ぶどうの房」句稿
秋山秋紅蓼「夏みかん」句稿
秋山秋紅蓼　素描「朝顔」
秋山秋紅蓼「葡萄礼賛」句稿
秋山秋紅蓼「文楽人形」スケッチ
秋山秋紅蓼「正月」句稿
秋山秋紅蓼　水彩画　1956（昭和31）年２月28日「銀座大増の大福」
増穂南中学校校歌パンフレット
秋山秋紅蓼『兵隊と桜』1940（昭和15）年１月　沙羅書店
秋山秋紅蓼「俳句四格調の説」原稿〈複製〉

田中冬二（たなか　ふゆじ）

田中冬二「晩春の夜に」草稿
田中冬二「景徳院」草稿
田中冬二『若葉雨』自筆句集
田中冬二「麦藁帽子の感覚―四季の思い出―」草稿
田中冬二「憂愁をのこして夏の日は過ぎたが」草稿
田中冬二「雪女郎の銀の簪ひろひたる」短冊
田中冬二「正月の顔」草稿
田中冬二『青い夜道』1929（昭和４）年12月　第一書房
田中冬二「山の祭」直筆一冊本　1956（昭和31）年12月〈複製〉

木々高太郎（きぎ　たかたろう）

木々高太郎「文学に於ける実感に就て」原稿
木々高太郎「夜をこめてささやく如し哲学を恋をねたみをわが耳鳴りは」色紙
木々高太郎「ねむり妻」原稿
木々高太郎「新青年」第16巻第２号　1935（昭和10）年２月
木々高太郎「新青年」第17巻第６号　1936（昭和11）年５月
木々高太郎『笛吹』1948（昭和23）年３月　世界社
木々高太郎『眠り人形』1935（昭和10）年４月　春秋社
木々高太郎「笛吹　―或るアナーキストの死」原稿〈複製〉
「シュピオ」第３巻第５号　1937（昭和12）年６月

小尾十三（おび　じゅうぞう）

小尾十三「青き大麦畠にて」原稿
小尾十三「からすの親子」草稿
小尾十三「親子だるま」原稿
小尾十三「しつけ糸」原稿

小尾十三「母への反抗時代」原稿〈複製〉
芥川賞記念品の腕時計
小尾十三『雑巾先生』1945（昭和20）年２月　満洲文藝春秋社
「文藝春秋」第22巻第12号　1944（昭和19）年12月

村岡花子（むらおか　はなこ）

村岡花子「昔のこと、今のこと」原稿
村岡花子「初めての本」原稿
村岡花子「子どものことば」原稿
村岡花子「彼と彼女」原稿
村岡花子『赤毛のアン』第4章翻訳原稿〈複製〉
モンゴメリ『ANNE OF GREEN GABLES』〈複製〉
村岡花子『赤毛のアン』1952（昭和27）年５月　三笠書房
村岡花子『随筆集　心の饗宴』1941（昭和16）年４月　時代社

徳永寿美子（とくなが　すみこ）

徳永寿美子「子ばとのぽうちゃん」草稿
徳永寿美子「あんじゅとずしおう」草稿
徳永寿美子『あんじゅとずしおう』1958（昭和33）年９月　実業之日本社
「フランダースの犬」草稿
徳永寿美子「たこたこあがれ」原稿
徳永寿美子「小公子」原稿〈複製〉
徳永寿美子『小公子』1948（昭和23）年５月　広島図書
徳永寿美子『薔薇の踊り子』1921（大正10）年２月　アルス〈複製〉
「母」第６年第８号　1920（大正９）年８月〈複製〉原本 成蹊学園学園史料室蔵

八木義徳（やぎ　よしのり）

八木義徳「御身」について」原稿
八木義徳「美しき晩年のために」原稿
八木義徳「甲州と私」原稿
八木義徳「夢のかけ橋成る」原稿
「満洲観光聯盟報」第５巻第６号　1941（昭和16）年６月
八木義徳『母子鎮魂』1948（昭和23）年３月　世界社
八木義徳『風祭』1976（昭和51）年８月　河出書房新社

武田泰淳（たけだ　たいじゅん）

司修『富士』挿絵原画　エッチング
武田泰淳『富士』1971（昭和46）年11月　中央公論社
「海」第１巻第５号　1969（昭和44）年10月
「海」第８巻第12号　1976（昭和51）年12月　武田泰淳追悼特集
武田泰淳「わが子キリスト」原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵

李良枝（イ・ヤンジ）

李良枝「かずきめ」草稿
李良枝「あにごぜ」草稿
李良枝「ナビ・タリョン」草稿
李良枝「夜寒」草稿
李良枝『由熙』1989（平成元）年２月　講談社
ソウル大学卒業証書・楯
芥川賞正賞の記念品
愛用の筆筒、文具類

辻　邦生（つじ　くにお）

辻邦生　大澤宏孝宛書簡　1990（平成２）年１月５日
辻邦生「シェイクスピア「ソネット」吉田健一訳の一節」色紙
辻邦生「南イングランドの印象から」原稿
辻邦生　村松定史宛書簡　1982（昭和57）年３月28日
辻邦生『銀杏散りやまず』1989（平成元）年９月　新潮社
「海」創刊特大号　1969（昭和44）年７月
「新潮」1982（昭和57）年２月

第3室　芥川龍之介

【大川の水（誕生・少年期）】

伯母のふきが使った長唄稽古本
「牛乳の用法」パンフレット　1904（明治37）年11月　耕牧舎
芥川龍之介「義仲論」原稿

【空中の火花（文壇登場）】

菅虎雄筆「我鬼窟」扁額〈複製〉
芥川龍之介「鼻」ノート
芥川龍之介「鼻」草稿「新思潮」1916（大正５）年２月掲載〈複製〉
「新思潮」創刊号　1916（大正５）年２月
芥川龍之介「葬儀の記」原稿〈複製〉
芥川龍之介「秋」草稿
芥川龍之介『傀儡師』1919（大正８）年１月　新潮社
芥川龍之介『点心』1923（大正11）年５月　金星堂
芥川龍之介『支那游記』1925（大正14）年11月　改造社

【ぼんやりした不安（苦悩と死）】

芥川龍之介筆「澄江堂十首」巻子〈複製〉原本　天理大学附属天理図書館蔵
『近代日本文藝読本』全５巻　1925（大正14）年11月　興文社
芥川龍之介『湖南の扇』1927（昭和２）年６月　文藝春秋社出版部
芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」原稿「改造」1927（昭和２）年４月掲載〈複製〉
芥川龍之介「或阿呆の一生」原稿「改造」1927（昭和２）年10月掲載〈複製〉

【書画の魅力】

芥川龍之介　西村貞吉宛書簡額装　1921（大正10）年７月21日（推定）
芥川龍之介　菅虎雄宛書簡額装　1913（大正２）年11月19日
芥川龍之介「抱虚懐欲歩古今」
「紙窓風淅瀝」額装
水彩画　花
水彩画　女性像　1910（明治43）年
農村の家　水彩1909（明治42）年
水彩画　男の肖像
「亀」素描
手書きの朝鮮半島の地図

【芥川の俳句】

「麦秋の茜の産衣縫ひけらし」ほか俳句草稿
「喇嘛寺のさびしさつげよ合歓の花」ほか俳句草稿
「黒南風の大うみ凪げるたまゆらや」ほか俳句草稿
「風すぢの雨にもとほる青田かな」ほか俳句草稿
「荘厳の甍に暮れよ合歓の花」ほか俳句草稿
「咲きたらぬ庚申薔薇を青嵐」ほか俳句草稿
「札白し牡丹畑の夕あかり」ほか俳句草稿
「秋鯖やあだ塩とくる一日干し」ほか俳句草稿
「山にほふ落葉に月のほがらかな」ほか俳句草稿
松江連句
「山もとの夜長を笠のゆくへかな」ほか俳句草稿
「はつ時雨ありとも見えぬ飛行機や」俳句草稿
「生け垣はかたかげりつつ山茶花や」俳句草稿
「みぞるるや犬の来てねる炭俵」ほか俳句草稿
「ホトトギス」1918（大正７）年９月
「ホトトギス」1919（大正８）年３月
芥川龍之介『梅・馬・鶯』1926（大正15）年12月　新潮社〈復刻〉
「雲母」1927（昭和２）年９月号
『澄江堂句集』1927（昭和２）年12月　文藝春秋社

【芥川と山梨】

芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」幅〈複製〉
芥川龍之介「水虎晩帰之図」額〈複製〉
芥川龍之介　山本喜誉司宛書簡　1910（明治43）年10月14日〈複製〉
芥川龍之介　山梨夏期大学講演メモ〈複製〉

【羅生門】

「羅生門」関連ノート〈複製〉
芥川龍之介『羅生門』1917（大正６）年５月　阿蘭陀書房〈復刻〉
芥川龍之介『鼻』1918（大正７）年７月　春陽堂〈復刻〉

【友への手紙】

芥川龍之介　井川恭宛書簡　1914（大正３）年１月21日〈複製〉
原本　大阪市立大学学術情報総合センター恒藤記念室蔵
芥川龍之介　佐藤春夫宛書簡　1917（大正６）年４月５日

【夏目漱石の手紙】

夏目漱石　久米正雄・芥川龍之介宛書簡　1918（大正７）年８月21日〈複製〉

【芥川と児童文学】

「赤い鳥」創刊号　1918（大正７）年７月
芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿〈複製〉
芥川龍之介「杜子春」原稿〈複製〉
芥川龍之介『三つの宝』1928（昭和３）年６月　改造社〈復刻〉

芥川龍之介作 楽焼皿「小心火盗」
『芥川龍之介全集』（1934年岩波書店）予約募集の凸版
愛用のペーパーナイフ
自筆俳句入扇面「明星のちろりにひびけほととぎす」